

# 榊原病院 Monthly

Vol.13  
2016.February

独立行政法人 榊原病院  
国立病院機構  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital  
発行者 榊原病院企画課

## 院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院長を経て、2014年榊原病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOベシヤワール会の会長として活躍。



## 診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症  
専門外来
- こころのリスク外来

## 病床数 126床

- 精神科病棟 108床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット
- アルコール・薬物依存症ユニット

## 病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

〈希望を持ち、社会へ〉

副院長 村田 昌彦



平成27年12月1日付で富山県南砺市にある国立病院機構北陸病院からこの榊原病院に異動いたしました。

榊原病院Monthlyの第一号(平成26年9月発行)を読むと、巻頭言に『再建途上』とありました。

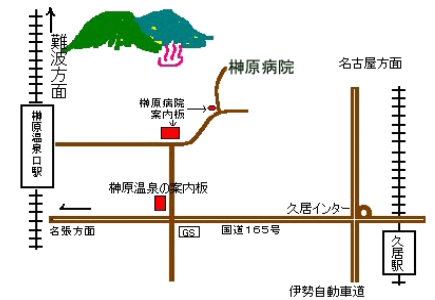
私はその再建のお手伝いをしようと異動を希望した次第でしたが、着任してみるとスタッフの意識の高さ、意欲の高さに圧倒されました。勤務して

みると医療水準も高く、再建プロセスが非常に順調であることを実感しました。

これは村上院長をはじめ、全職員がより良い方向に向かって邁進している結果がすでに出ている証だと思います。過去に病棟を縮小した影響で受け入れられる病床数が現時点では少なくなっており、入院の希望や依頼にすぐに応じられず申し訳なく思うこともありますが、今年上半期には病棟をリオープンする予定であり、病棟機能をより充実して今後様々な要望に応えられるようになります。この記事が印刷される頃はまだ冬の頃かと推測しますが、当院は今、季節より一歩先に大きく芽吹いています。

私は北陸病院において医療観察法病棟の立ち上げから9年9ヶ月間携わってまいりました。ここでは多職種チーム医療、難治性統合失調症へのクロザピン医療、保護観察所や地域の行政・福祉担当のみなさんとの連携などを通じて患者さんの社会復帰に尽くしてきました。また、北陸病院では認知症の患者さんが多く、BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia; 認知症による行動・心理症状)といわれる認知症による徘徊、幻覚・妄想、暴力などへの治療にも携わってきました(ご家族にもし気がかりなことがありましたら、ご遠慮なくご相談いただければと思います)。この経験を当院でも生かしていきます。

当院はすでにクロザピンを導入して患者さんの社会復帰を進めています。アルコールや様々な物質への依存からの回復にも力を入れています。当院の理念は「この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である」です。治療を受ける人が中心となって希望を持ち社会で生活できるよう、よりよい医療を提供し患者さんに尽くしたいと考えています。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

## トピックス

行事・出来ごと

- 平成28年1月27日(水)、つばさ病棟「もちつき大会」を行いました。
- つばさ病棟外部評価会議・地域連絡会議 平成28年2月15日(月)13:30~
- デイケアが南病棟2階から北病棟3階へ移転します。平成28年3月予定

教育・研修

- 平成28年度「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)指導者養成研修」開催予定
  - ・平成28年7月11日(月)~14日(木)
  - ・平成28年10月24日(月)~27日(木)



榊原病院ホームページ  
QRコード

## 地域医療連携室だより

### 〈図書ルームからのお知らせ〉



患者様・ご家族様に、図書を通じて病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取りむむ意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。開設時間：第2月曜日 11時～12時に変更

空床状況  
2月1日現在

精神科病棟
2床

## 訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできずに使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉



治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成28年1月までに全症例は25例となりました。1月の新規導入は4例でした。2月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。

## 認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来



### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内

デイケアは毎週、月・水・金の週3日、南病棟2階で実施しています。

実施時間は9時30分から15時30分です。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容： 統合失調症疾患教育、スポーツ、昼食づくり、カラオケ など

平成28年3月より、デイケアの実施場所が南病棟2階から北病棟3階に移転する予定です。ご利用の皆様方にはご迷惑をおかけします。



榊原は自然がいっぱい！  
お話しながら歩きませんか？



大人気のクッキング教室で、  
カレーライスを作りました。

## 近況だより

### アルコール依存症病床を開設して1年になりました！！

平成26年12月、南1病棟に薬物・アルコール病床を開設して1年が経過しました。この1年間に30名の方が入院されました。入院中は断酒会やAAの皆さんからの協力も頂いており回復の仲間との交流もしています。退院後もデイケアや外来へ通院し、お酒のない新たな生活を始められている体験に患者さんだけでなくスタッフも励まされ嬉しく思います。今後も多くの方が依存症から回復されるよう早めの受診をお待ちしております。

また、アルコール依存症のリーフレットを外来待合室に置いてありますので、ご自由にお持ちください。



(アルコール依存症のリーフレット)